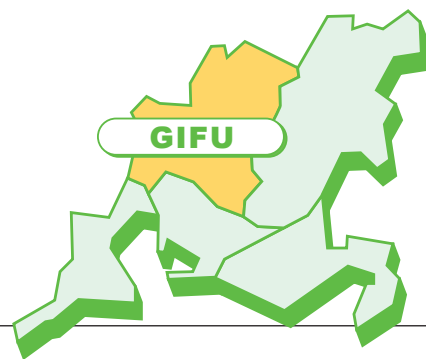


中部 だより

中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きた、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。



岐阜県の森林・林業・木材産業に関する人材育成の取り組み

1. 岐阜県の林業の現状

岐阜県は、森林が県土の8割以上を占め、高知県に次ぐ第2位の「森林県」だ。また、森林・林業・木材行政を担う単独の林政部を持つ数少ない都道府県の一つに数えられる。県内の林業や木材産業の歴史は古く、奈良時代には飛驒の国から都の造営に携わった職人が、加工技術の高さから「飛驒の匠」と称されるなど、木材産業との関わりは深い。

近年は、機械化の進展や加工施設の強化から県内材の供給量が上向く兆しはあるものの、収入面や高齢化などを背景に林業に携わる人材は年々減少しており、深刻な問題となっている。1979年度に5,307人いた県内の林業従事者は、2018年度は940人となり、約40年間で1/5まで減少している。

こうした状況を打開するため、県は次世代の林業を担う人材を育成する場として、美濃市の林業短期大学校を改組し、2001年に岐阜県立森林文化アカデミーを開校した。また、2013年には岐阜県が誇る「木と共生する文化」を次世代につなぐため、「ぎふ木育30年ビジョン」を策定し、幼児から大人まで幅広い年齢層を対象として、未来の森林に関わる人づくりを実施している。



森林文化アカデミー「アカデミーセンター」

本特集では、「森林文化アカデミー」や「ぎふ木育」の取り組みを取り上げ、岐阜県の森林・林業・木材産業に関する未来を担う人材育成の活動を紹介する。

2. 「森林文化アカデミー」の取り組み

森林文化アカデミーは、「森と人との共生」を基本理念に掲げた33ha(東京ドーム約7個分)の広大な演習林を有する2年制の専修学校だ。教育体制は、林業技術を学ぶ「森と木のエンジニア科」と、林業、森林環境教育や木造建築、木工などに携わる人材を育成する「森と木のクリエイター科」に分かれており、現在約80人が在学している。

最近では、県民に向けた森林教育を展開する場として、2020年7月には森林教育の総合拠点となる「森林総合教育センター(morinos)」をオープンし、幼児から大人まで楽しめる森に関するさまざまなプログラムの実施と指導者育成を進めている。morinosひろばでは、子どもたちにさまざまな資材や道具を用いて自ら考え・つくり、自然から自由に学ぶ場を提供している。

こうした新たな取り組みは、同アカデミーの涌井学長が就任後に掲げた改革方針に沿って進められており、森林・林業・木材産業を取り巻く社会情勢の変化に対応しながら以下の考え方を基軸としている。



森林総合教育センター「morinos」



morinosひろばで子どもたちが遊ぶ様子

- ①「将来に通じ、産業界のニーズに適合した教育の骨組み」と「産業界との連携」
- ②「体系的科学・技術を基礎とした現場における指導的役割を担う人材供給」と「多様な現場条件に安全な条件を自ら確立し、経済性の高い生産を担う森林技術者の供給」



森林文化アカデミー演習林での実習風景

現在、地元美濃市をはじめとする県内自治体および複数の民間企業、ドイツのロッテンブルク林業大学などと連携協定を結んでおり、横断的なネットワークを構築している。

3. 林業のデジタル化について

岐阜県は、2020年4月に森林文化アカデミー森林技術開発・支援センター内にスマート林業推進係を新設し、林業の新技术を林業事業体などへ普及する取り組みを開始した。

「林業のデジタル化」「造林・育林作業の改善（機械化・無人化）」を取り組みの大きな柱とし、県内の林業関係者向けに技術研修会などを開催し、林業の現場を安全で働きやすく、魅力ある職場に改善することを目標としている。具体的には、ドローンに関する研修会や、レーザーで測量できる3次元測量システムの研修会などを開催し、新たな技術の普及に努めている。

4. 岐阜県が推進する「ぎふ木育」について

ぎふ木育とは、岐阜県が誇る木と共生する文化を将来へつないでいくための取り組みで、豊かな自然を背景とした「森と木からの学び」と定義されている。子どもをはじめとするすべての人々が、森林に対して責任ある行動を取ることができる人材になることを目指しており、ふれあい・親しむことから、気づき、理解し、考える、という段階的な取り組みを特徴としている。

2020年7月には、「ふれあい・親しむ」を体感できる場として、木育の総合拠点「ぎふ木遊館」を

岐阜市内にオープン。街中で気軽に木にふれ合える施設として注目を集めている。現在、コロナ禍で入場制限が行われているものの、事前予約枠がほぼ満員という状況だ。来館者も高い満足度を示しており、リピーターも多い。

また、ぎふ木育を体験できる拠点とし

て、県内各地の児童館、図書館、子育て支援センターなどに、県産材を用いた木のおもちゃや家具を常設する「ぎふ木育ひろば」の設置を進めており、現在101カ所が認定されている。木材に気軽にふれる場をさまざまな場所で提供する取り組みにより、森林への愛着心を育み、未来の担い手づくりにつながることが期待されている。



ぎふ木遊館



ぎふ木遊館で子どもたちが遊ぶ様子

5. これからの取り組みについて

林業従事者の減少を抑制し、いかに増加させていくかがこれからの大きな課題だ。森林文化アカデミーでは、林業の効率性と生産性をあげるとともに、新たな付加価値を見出し、知識集約型産業へと発展させる取り組みが進められている。岐阜県が進めているぎふ木育では、林業を単なる職業の一つとして捉えるのではなく、岐阜県に生まれた人のアイデンティティとして捉え、子どものうちから木に対する愛着心と関心を持たせることで、将来の林業人材の拡大に結びつけようとしている。

今回取材したmorinosでは、子どもたちが木と触れ合いながら自由に遊ぶ姿が印象的で、ぎふ木育の種が少なからず芽生えてきているのではないかと感じた。今後、岐阜県の取り組みが花開き、未来に向けた森林づくりへの関心と新たな林業を担う人材の拡大につながることが期待したい。

文：岐阜担当 二村 晃太郎

取材協力：岐阜県林政部、岐阜県立森林文化アカデミー